

令和3年上半期の火災・救急・救助統計(7月16日時点速報値)



火災 出火原因1位は「たき火」

上半期に発生した火災は49件で、昨年同時期と比較すると9件減少し、建物火災も6件減少しました。出火原因の1位は「たき火(約22%)」でした。その多くは、ちょっとした不注意でたき火の火が風にあおられ周囲の枯草などに燃え広がり延焼拡大したものや、衣服などに火がつき負傷したものです。

住宅火災の出火原因の1位は、「ストーブ」でした。事例としては、ストーブの近くの燃えやすいものに燃え広がり、1名の方がお亡くなりになりました。

上半期の住宅火災により3名の尊い命が失われています。いざという時に、初期消火や素早い避難をするために住宅用火災警報器を必ず設置してください。また、定期的に点検し適切に維持管理しましょう。

火災概況

▲は減を示す

区分		令和3年上半期	前年上半期	比 較
火災件数合計(件)		49	58	▲9
火災種別(件)	建物火災	21	27	▲6
	うち住宅火災	15	19	▲4
	林野火災	3	2	1
	車両火災	4	5	▲1
	その他の火災	21	24	▲3
死者(人)		3	2	1
負傷者(人)		3	1	2

出火原因

単位は件 ▲は減を示す

出火原因	令和3年上半期		前年上半期		比 較	
	全体	住宅	全体	住宅	全体	住宅
たばこ	2	1	7	1	▲5	0
こんろ	0	0	4	3	▲4	▲3
焼却炉	1	0	0	0	1	0
ストーブ	4	4	4	4	0	0
排気管	1	0	2	0	▲1	0
電気装置	1	0	0	0	1	0
電気機器	1	1	0	0	1	1
電灯・電話等の配線	3	2	0	0	3	2
配線器具	3	2	2	2	1	0
火あそび	0	0	2	1	▲2	▲1
マッチ・ライター	1	1	2	0	▲1	1
たき火	11	1	7	0	4	1
溶接機・切断機	0	0	2	0	▲2	0
火入れ	6	0	3	0	3	0
放火	1	1	0	0	1	1
放火の疑い	8	0	11	6	▲3	▲6
その他	6	2	7	1	▲1	1
不明・調査中	0	0	5	1	▲5	▲1
合計	49	15	58	19	▲9	▲4



救 急 救急事故種別1位は「急病」

上半期に出動した救急件数は、6,913件でした。事故種別では急病が4,476件と最も多く、全体の約65%を占め、次いで一般負傷が1,130件(約16%)、交通事故が413件(約6%)でした。昨年同時期と比較すると、出動件数は28件減少し、搬送人員は123人減少しました。

昨年に引き続き出動件数は減少していますが、急病の件数は増えています。引き続き、感染症にかからないように新しい生活様式を継続しましょう。

救急概況

▲は減を示す

区 分		令和3年上半期	前年上半期	比 較
出 動 件 数 (件)		6,913	6,941	▲28
事故種別(件)	急 病	4,476	4,428	48
	一 般	1,130	1,261	▲131
	交 通 事 故	413	419	▲6
	そ の 他	894	833	61
搬 送 人 員 (人)		6,200	6,323	▲123

救 助 建物等による事故が増加傾向



上半期に出動した救助件数は、87件でした。そのうち、交通事故が39件で全体の約45%を占め、次いで建物等による事故が28件、それ以外の事故20件でした。

近年、建物等による事故が増加傾向にあります。これは一人暮らしの高齢者が、施錠された住居(室内)で意識を失い倒れ、家族等と連絡が取れない(呼びかけに応答がない)事例が多く発生しているためです。

また、これから台風シーズンに入り、大雨、洪水、暴風、高潮による自然災害が発生しやすい季節となります。

防災気象情報を有効に活用し、早めの行動に心掛けるとともに、危険な箇所には近づかないなど、自分の身を守ることを最優先に行動しましょう。

救助概況

▲は減を示す

区 分		令和3年上半期	前年上半期	比 較
出 動 件 数 (件)		87	76	11
救助種別(件)	交 通 事 故	39	32	7
	水 難 事 故	1	4	▲3
	機 械 による事故	1	0	1
	建物等による事故	28	26	2
	上記以外の事故	18	14	4

問い合わせ

- ・ 火災 予防課違反指導担当 ☎254-0356 FAX 256-7755
- ・ 救急 消防救急課救急担当 ☎254-1600 FAX 254-1607
- ・ 救助 消防救急課消防救助担当 ☎254-1601 FAX 254-1607